

神女広報

CROSSROADS

vol.16
2013 Summer

神戸女子大学
神戸女子大学大学院
神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター



特集

新たな旅立ち

- 6 教育研究活動
- 13 学園トピックス
- 15 大学連携
- 16 地域連携
- 18 インフォメーション

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌

学校法人行吉学園

略 歴

学 歴:	昭和49年	3月	神戸大学教育学部 卒業
	昭和52年	3月	名古屋大学大学院教育学研究科(教育心理学専攻)修士課程 修了
	平成17年	9月	博士(心理学)[名古屋大学]
職 歴:	昭和59年	4月	大阪教育大学教育学部助教授 (～平成6年4月)
	昭和63年		在外研究(米国カーネギーメロン大学)
	平成 6年	4月	神戸女子大学文学部助教授
	平成 9年	4月	神戸女子大学文学部教授 現在に至る
	平成22年	4月	神戸女子大学文学部長
	平成25年	4月	神戸女子大学学長就任



中島学長の思い描く理想の神戸女子大学像と教育研究活動の抱負をお聞かせください。

少子化が叫ばれて久しいですが、この傾向は今日でも依然として進行しており、4、5年後の平成30年以降からは18歳人口がさらに減少していく状況にあります。また、一方で大学の数は、これまで一貫して増加傾向をたどり、現在ではほぼ800校にのぼり、そのうち私立大学は約600校を数えるに至っております。このように大学を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。このような環境にあって、本学が今後とも課題とすべきことは、単に存立するだけでなく受験生や社会から志願者、人材育成、教育・研究、地域連携、社会貢献などの諸課題への取り組みと実績に関して高い評価を受け、女子大学として誇りある地位をこれまで以上に確かなものとする事だと思えます。そのためには、時代の変化に対応しながら、学生や社会から求められ、存立意義が広範に認められることが必要です。本学は、教育目標として学生が求める大学、地域が求める大学、時代が求める大学として社会に貢献する女性の育成を掲げており、この点を今後もより充実させていくことが大切であると考えています。



幸い、本学は、教員一人当たりの学生数が他大学に比べて少ないという特色があります。また、開学以来、教員によるクラス担任制をとり、学生に対するきめ細かな指導やケアを行う体制が敷かれており、学生一人ひとりの教育を大切にしている大学であり続けてきたことを誇りに思います。今後とも、本学は関西および全国各地から希望と夢を抱いた学生が神戸の地に集い、学び、成長し、人生の目標と社会に対する志をもって世の中に巣立っていく学び舎であり続けたいと思っています。



中島学長は教育心理学、認知心理学の授業を担当ですが、学生に何を伝えたいと思って講義されていますか。

私が担当している授業は、いずれも心理学分野の科目です。心理学という分野は、基本的には実験、調査、検査などの方法で得られた実証的証拠に基づいて、人間の心理と行動の特性やしくみを研究する分野です。従って、テキストや授業で説明される心理現象に関する理論や結論だけを知るのではなく、どのような実証的証拠からそれが言えるのかについても、常に考えをめぐらし、チェックしながら理解する姿勢が大切だということを伝えたいと思っています。





神戸女子大学
なかしま みのる
学長 中島 實



ご自身の研究について紹介をお願いします。

専門は認知心理学、応用分野として教育心理学です。日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会および関西心理学会に所属しています。認知心理学は、基本として人間の認識活動の特性やその仕組みを研究対象にする分野です。私の場合は、この中でも特に人間の思考や判断の特性、子どもにおける発達的变化の過程などを研究対象としています。例えば、大人の思考や判断では、確証バイアスという特性があります。これは自分の考え(仮説)を確かめるとき、その考えに都合のいい証拠には目を向けますが、都合の悪い証拠にはあまり目を向けないという特性で、結果として不十分または誤った考えを正しいと信じてしまう傾向を言います。



座右の銘を教えてください。

折にふれ、思い起こす言葉はいくつかあります。例えば、引用されることが多い言ですが「神は細部に宿る」なども銘のひとつです。実生活ではつい忘れがちなのですが、物事に取り組む姿勢として大切なことだと思っています。同様に、「世界平和のために何をすべきですか」と質問された際に、「帰って家族を大切にしてください」と話されたとされるマザー・テレサの言も、大切な真理を伝える言だと思っています。



趣味を教えてください。

しいて言えば、読書です。私小説は苦手ですが、それ以外はノンフィクションも含めて乱読します。一番好むのは、やはり時代小説です。大体は、ある作家の作品を続けて読むことが多いです。ありきたりですが、吉川英治、司馬遼太郎、山本周五郎、藤沢周平、池波正太郎などの作品は特に好きです。



神戸女子大学 全学共通教養科目全面改訂

平成25年度から神戸女子大学の全学共通教養科目のカリキュラムが新しくなりました。全学の学生が共通に履修し、教育目標を実現するための教育の根幹となる教養科目群を紹介します。

■ 神戸女子大学 全学共通教育部長から新カリキュラムについての紹介



全学共通教育部長
狩野 恭 (文学部 教授)

全学共通教養科目は、＜大学で自分自身の成長に最も役立った科目＞というアンケート調査(4月19日新聞紙上)があるように、大学入学生の学力低下が話題にされる近年、大学における授業カリキュラムの基礎として、文部科学省のみならず、多くの大学が重視する重要な課題です。

神戸女子大学では、このたび、平成25年度入学生より、全学共通教養科目新カリキュラムが実施されることになりました。このカリキュラム改革は、全学共通教育部の前身である＜神戸女子大学教育研究機構＞、さらには、その前身である＜教養科目運営委員会＞以来、十数年来の改革構想、議論の成果です。

そもそも大学で身につけるべき＜教養＞にはいくつかの要素があります。その第一は＜知的精神＞(spirit)を養うことではないでしょうか。広く知識を求める心、物事を深く考える態度、いずれも＜教養＞にとって不可欠な要素です。さらには＜基本技能の徹底的習熟＞(skill)も教養教育の重要な要素です。語学にしてもITにしても、そこには訓練によってしか養われない＜力＞があります。この力が＜知的精神＞を具体的な力に変えてくれます。さらに、それらすべての基礎となり、支える力となるのが体力と健康(sports)です。これら、Spirit, Skill, Sportsの3つのSをカリキュラムとして実現するのが今回の改革の目標でした。さらに全体の科目の構成、役割を明確にすることも今回の改革の目的のひとつでした。

この改革によって、本学に入学してくる学生の多様な状況に対応し、本学の教育目標である、＜自立心＞＜対話力＞＜創造性＞を、本学の特色であるきめ細やかな学生指導によって実現するための土台が出来上がったことは、十数年来、教養教育運営に携わったものとしてささやかな喜びです。

■ 全学共通教養科目 新カリキュラムの構成

- (1) 基幹科目群
 - (A) 「基礎」：すべての学びの＜基礎力＞＜人間力＞を養うと同時に「就職活動」の基礎となる力を培う科目
 - (B) 「女性」：本学の創立の理念にそった＜女性としての生き方と自覚＞を促す科目
 - (C) 「神戸と地域」：本学の特色である＜地域との結びつき＞を实践する科目
- (2) 基礎科目群

すべての学びの基礎となるもので、トレーニングや、トレーニングによる基礎スキルの向上を目指す科目

 - (A) 語学科目
 - (1) 英語
 - (2) 初習言語 (英語以外の世界の言語)
[ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、イタリア語]
 - (B) 情報科目
 - (C) ウェルネス科目
 - (1) 基礎トレーニング (ウェルネス入門)
 - (2) スポーツと健康の科学 (講義科目)
 - (3) スポーツ実技Ⅰ (学内種目)
 - (4) スポーツ実技Ⅱ (学外種目)
- (3) 一般科目群
 - (A) 一般科目：様々な分野を教養として、広く、深く学べる科目
 - (B) 教養総合科目：特定の分野に限定されない自由な科目や学際的科目
- (4) オープン科目群

本来は各学科の専門科目であるが、他学科の学生が教養科目とし履修できるやや専門性の高い科目
- (5) 演習科目

教養演習：各教員の専門、教養に触れる少人数ゼミ
- (6) 他
 - (A) 検定認定科目

語学関係の検定試験を受検し、合格することによって認定される科目
 - (B) 単位互換科目

神戸女子短期大学やポートアイランド4大学など、他大学との協定に基づいて、他大学で履修した科目が本学の科目として認定される科目。海外留学などによる海外で修得した単位も含まれる

 - (1) 海外留学における語学コースの受講による単位を認定した科目
 - (2) 神戸女子短期大学における単位互換科目の受講による単位を認定した科目
 - (3) 大学間連携科目：神戸ポートアイランド4大学連携単位互換科目の受講による単位を認定した科目
 - (4) (大学コンソーシアムひょうご神戸)単位互換科目の受講による単位を認定した科目



ポートアイランドキャンパス

■ 新しく始まった全学共通教養科目の講義紹介

「教養総合(アジアの環境問題)」(小林 善文教授)

教養総合科目のひとつであり、学際的な科目であることから文学部、家政学部の全学科から134名の学生が受講しました。

経済発展により環境問題が深刻化しているアジア各地の水資源の確保と汚染防止というテーマで講義が進められました。

地球温暖化と気候変動が現実のものとなりつつある今日、学生の関心も高かったようです。



■ 神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科も新カリキュラムでスタートします

今日の少子高齢社会・格差社会では、高齢者・障がい者・児童・生活困窮者など、様々な生活課題をもつ人々への支援が求められています。本学科では、人間尊重と国民の健康と福祉の増進を基本理念として、誰もが人間らしく生き生きと生活し、自己実現を達成するように、ともに支えあい、ともに暮らせるような福祉社会を目指して活動する知性と感性、積極的な行動力をもつ専門職を養成しています。そのために、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験資格の取得と合格を支援しています。



「福祉と人権」(松崎 喜良教授)

社会福祉学科は教育の目的のひとつとして、福祉の心と豊かな人間性を備え個々人の人権を尊重し、かつ柔軟に発想し工夫し開発・実行できる人材を養成することを掲げています。社会福祉の対象者の人権を考えどのような援助が必要なのかを学習します。社会福祉を学ぶ学生にとって今後の専門科目の基盤となる視点を確立するための授業です。

78名の学生が受講しました。

■ 神戸女子短期大学 総合生活学科も新カリキュラムでスタートします

衣・食・住、情報など、生活全般にわたる基礎・基本知識を、学科基礎科目として学びます。専門科目としては、9科目群（基礎デザイン、服飾デザイン、フードデザイン、住居デザイン、ビューティデザイン、ビジネス、コミュニケーション、情報、心理）と1コース（中学校家庭科教諭教員養成コース）の中から、学生は自らのキャリアデザインと希望する資格取得に応じて、自主的に、自由度高く履修計画を立てて学ぶことができます。実践的な語学教育をはじめ、就職を意識した資格や検定試験の導入、実習を多く採り入れた内容で、平成25年度から学科再編による新しいカリキュラムを実施しています。

「プレゼンテーション概論」(中川 伸子教授)

新カリキュラムの科目群のひとつ、コミュニケーションの分野の授業です。

学園の教育目標のひとつ「対話力」を高めるためにもプレゼンテーション力は必要です。自分の言いたいことを場面に応じて適切な表現で相手に伝えるために理論と技術の両面を学びます。「プレゼンテーション実務士」資格取得の必修科目でもあり、プレゼンテーションの実技も採り入れた実践的な授業は学生に好評でした。

54名の学生が受講しました。





古典芸能研究センターからのお知らせ



神戸女子大学古典芸能研究センター長
川森 博司(文学部 教授)

神戸女子大学古典芸能研究センターは、平成25年4月、新センター長を迎えました。

新センター長あいさつ

神戸女子大学古典芸能研究センターは、平成13年の設立以来、①能・狂言、②浄瑠璃・歌舞伎、③民俗芸能の3分野を柱にして、日本の古典芸能を幅広い視野から研究・分析し、その成果を書物、データベース、講座、シンポジウムなどの形で社会に還元していく活動を展開してきました。本学の位置する神戸は、近隣の西宮、播州、淡路などを含めて、古典芸能の発祥に関わる地域であり、また、海外文化の入り口としての神戸は、日本の伝統文化をグローバルな視野から検討し、海外に発信していくうえで有利な位置を占めているといえます。

能楽、文楽、歌舞伎は、ユネスコの無形文化遺産に登録され、海外からも日本文化の象徴とみなされるようになっています。そのような時代であるだけに、これら古典芸能の諸分野を内外双方の視点からとらえていく必要があります。能における死者の視点からの語り、狂言におけるユーモア、浄瑠璃に見られる細やかな人情、歌舞伎の華麗さ、民俗芸能における静と動の対比、これらは日本の伝統文化の表現であるとともに、国境を越えて通じる普遍的な要素を含んでいます。古典芸能の研究を進めることにより、日本人の自己認識を深めるとともに、諸民族・諸文化が生き生きと共生する道を開いていかねばなりません。

当センターが目指すのは、そのような平和共存に向けた研究のための拠点づくりです。本学教員に加え、学外から各分野の第一線の研究者に客員研究員として協力をあおいで、女子大学にふさわしい「たおやかな力」を表現できるセンターに育てていきたいと思っています。引き続き、皆様のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成25年第2回常設展

写真展 平成25年4月「三ツ山大祭」—喜多文庫所蔵写真(昭和48年)と並べて



姫路市にある播磨国総社では、60年に1度の「一ツ山大祭」と20年に1度の「三ツ山大祭」という祭礼があります。このうち「三ツ山大祭」については、本学所蔵の喜多文庫には昭和48年に執り行われた祭礼の写真があり、喜多 慶治氏もその著書『兵庫県民俗芸能誌』で取り上げられています。今年は「三ツ山大祭」の年で、3月31日(日)から4月7日(日)の間に諸々の祭礼が執り行われました。センターでは、「喜多文庫民俗芸能資料データベース」のさらなる発展のため、喜多 慶治氏が調査された民俗芸能の再調査を折に触れて行ってきました。今回は、20年に1度の珍しい祭りであることもあり、祭りの様子を写真やビデオで撮影してきました。第2回常設展では、その調査報告を兼ねて写真を中心とした展示を行います。

場所：古典芸能研究センター閲覧室内 期間：平成25年5月13日(月)～8月30日(金)

新刊の紹介

近世文学研究の第一人者である本学名誉教授 信多 純一先生(平成7～15年度在籍)の著書『現代語訳 完本 浄瑠璃物語』が刊行されました。

「浄瑠璃物語」は日本の中世(鎌倉・室町時代頃)に作られた、源義経と浄瑠璃御前という美しい少女の悲恋の物語です。現在ではあまり馴染みがないのですが、「人形浄瑠璃文楽」の名称はこの物語からきています。この物語は、諸国を旅する語り手によって広まり、文学・音楽・美術・芸能へ大きな影響を及ぼした、たいへん重要な物語なのだそうです。この本では、原文の美しい語り口調は残しつつも、読みやすい現代語に訳されています。この機会に源氏や平家とはまた異なった趣きのある物語を紐解いてみませんか。

書評・掲載記事など

『毎日新聞』(平成25年3月3日(日)朝刊)「今週の本棚」渡辺 保氏

『ダ・ヴィンチ』(平成25年4月号 メディアファクトリー)「注目の新刊情報」



信多 純一著

『現代語訳 完本 浄瑠璃物語』和泉書院

定価(税込):3,150円

発売日:平成25年1月16日 判型:A5 159頁

平成25年度 科学研究費助成事業採択状況

平成25年度の科学研究費助成事業について、新規応募総数約93,000件のうち約26,000件が採択されました。本学園の採択件数は大学27件(継続21件、新規6件)、短期大学1件(新規1件)でした。

科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までの「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。独創的・先駆的な研究であるかの審査を経て採択された研究に対して助成が行われます。神戸女子大学の採択金額の合計は42,380千円であり、増加の一途を辿っています。

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	文学部・教授 大谷 節子	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	ジュニャーナシュリーミトラ「主宰神論」の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 瀬口 正晴	グルテンフリー膨化食品の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 堀田 久子	柑橘類搾汁残渣の有効利用について
基盤研究(C)	文学部・教授 木下 由紀子	世紀転換期における形而上的文化交流の形—岡倉天心とヴァーゼニア・ウルフの芸術観
基盤研究(C)	文学部・教授 山内 晋次	硫黄流通からみた古代・中世の日本とアジア
基盤研究(C)	文学部・教授 大橋 喜美子	幼保一体化に向けた保育カリキュラム・モデルの構築
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	ナノ食品—木質バルブから構造制御されて得た機能性食品材料—
基盤研究(C)	家政学部・准教授 大森 正子	脳機能維持・向上に関わる手芸活動の重要性に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授 高野倉 睦子	簡易型高齢女性サーマルマネキンによる着装時の人体—被服間の空気層の計測
基盤研究(C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	ジャガイモの品種による物理化学的特性と食味におよぼす要因に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 佐藤 勝昌	保育所における食物アレルギー児に対する給食の栄養評価に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 栗原 伸公	カプサイシン、ジングロール摂取による高血圧予防のメカニズム
基盤研究(C)	文学部・教授 森 尚也	ベケット作品／草稿におけるテキストと図：ライブニッツの組み合わせ術と存在論の研究
基盤研究(C)	文学部・教授 三保 忠夫	宮内庁書陵部所蔵鷹書についての日本語学的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授 吉村(森本) 真美	19世紀イギリスの植民地間ヒト移動と帝国ネットワークの形成
基盤研究(C)	文学部・准教授 野口 和美	米国パブリック・ディプロマシーにおけるフィランソピーと政府の連携に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 津田 理恵子	懐かしさを活用した生きがいの維持・向上—元気高齢者と虚弱高齢者への支援—
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 佐藤 誓子	食事管理を必要とする慢性疾患患児に対する保育所・学校の給食整備に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授 木村 万里子	雑豆由来オリゴ糖鎖の機能性開発と食品への応用
基盤研究(C)	家政学部・教授 田中 紀子	季節変化および食生活・生活習慣に起因するエネルギー代謝変動の定量化
基盤研究(C)	家政学部・教授 狩野 百合子	エキストラバージンオリーブ油の食習慣に基づいた複合的栄養機能の解析
基盤研究(C)	文学部・教授 永渕 朋枝	全集未収資料集の作成による藤村研究の再構築
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 植戸 貴子	親による障害者殺害の予防策に関する実証的研究：知的障害者の親の子離れ支援
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 吉川 豊	糖尿病克服を目指した有機・無機ナノ複合体である高活性金属錯体の探索研究
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授 畠山 由佳子	日本における児童虐待ケースに対する区分対応システムの開発的研究
若手研究(B)	健康福祉学部・助教 松本 衣代	インドネシアにおける小児肥満予防／改善教育健康プログラム開発の試み
若手研究(B)	文学部・非常勤講師 鎌谷 かおる	日本近世近代移行期における内水面漁業の研究—琵琶湖を対象に—

※ゴシック文字は今年度新規採択(7件)

大学院情報

日本穀物科学研究会-AACC International日本支部との ジョイント講演会において大学院生が研究成果を発表



ジョイント講演会で発表する田原 彩さん



学位の授与の様子



自動乳鉢で小麦粉の懸濁液を作成中

平成25年3月8日(金)に神戸女子大学須磨キャンパスで開催された日本穀物科学研究会(注1)とAACC International(American Association of Cereal Chemists:アメリカ国際穀物化学者協会)日本支部とのジョイント講演会にて、神戸女子大学大学院家政学研究科 食物栄養学専攻 博士後期課程の田原 彩さんが「製パンへのセルロース粒の利用と新しい機能導入の可能性」という演題で1時間にわたり講演を行いました。

田原さんは、学部生(山口県立大学)の時に卒業研究のテーマに内麦の地産地消を取り上げ、小麦の消費方法の研究を深めることを目標にして神戸女子大学の大学院に入学しました。その後、管理栄養士でもある田原さんは、小麦粉を使った人の健康を守る食品ができないかということに視点を絞り、体内で消化できないセルロースを使った低カロリー食品としてパンを製造することの研究に取り組みました。博士前期課程、後期課程を通じた研究が実り、田原さんは博士(食物栄養学)の学位を平成25年3月に授与されました。あわせて神戸女子大学の大学院生で初めて顕著な学問業績を挙げた学生として学生表彰も受けました。



瀬口正晴教授(左)とともにブラベンダーアミノグラフで小麦粉の粘度を計測中



ブラベンダーフェリノグラフで小麦粉の吸水率を測定中

田原さんは現在、ポストドクター(注2)として学位論文の指導教員であった家政学研究科の瀬口 正晴教授の下で、学部生や大学院生の実験実習の補助をしながら、新たなテーマ「ショ糖脂肪酸エステルを用いたデンプン粒表面の疎水性定量法」の確立を目指して研究を続けています。

(注1)日本穀物科学研究会は昭和49年に設立された関西穀物科学研究会が前身。製粉会社を中心に、関西地区のベーカリーエンジニア、小麦粉関係の企業、イーストや油脂関係の企業の技術者、業界新聞関係者、大学や公立の研究所の研究者などが集まって定期的に開催してきた勉強会を関西穀物科学研究会として発足したのが始まり。穀物科学の発展のため、この分野における研究者・技術者の学術交流と協力関係を促進することを目的に設立された。

(注2)大学の博士課程終了の研究者。主に博士号取得後に任期を決めて大学の研究職に就いている人。

活躍する卒業生紹介

青年海外協力隊を経てアフリカの農村で 道路整備に励む先輩



酒井樹里氏

平成25年6月5日(水)に神戸女子短期大学「キャリアへのアプローチI」(中川 伸子教授、上野 和廣教授 受講生216名)の授業において、世界各国の農村で道路整備の活動を行うNPO法人「道普請人(みちぶしんびと)」の職員としてアフリカ諸国で活躍している神戸女子短期大学第50期卒業生 酒井 樹里氏による講義が行われました。「働き方と生きがいについて—青年海外協力隊、NPO職員、アフリカを通して—」という演題です。

酒井氏は平成21年1月から2年間、ウガンダでJICA(日本国際協力事業団:Japan International Cooperation Agency)青年海外協力隊・村落開発普及員として、ネリカ米(注)の普及や農道補修活動を行いました。任期を終えた平成23年1月には、外務大臣から感謝状が授与され、「JICAボランティア事業参加者への外務大臣感謝状授与式及び懇談会」では帰国ボランティアを代表して活動報告を行った実績があります。

授業では酒井氏はウガンダでJICAの専門家の指導・助言を受けてウガンダ人の同僚とともに農家にネリカ米の栽培を奨励し、栽培されるようになった経緯を多くの写真を提示して講義しました。続いて、ネリカ米の生産者がそれを販売して収入を得るためには道路の整備が不可欠であることも痛切に感じ、その時に道路整備の指導をしてもらったことが縁で、NPO法人「道普請人」の職員になったことを説明しました。酒井氏は現在、ケニアやガーナ、タンザニアなどで道路整備の活動をしています。

NPO法人「道普請人」は、日本の伝統技術「土のう」を使って道路整備を行っています。この整備方法は現地で調達できる材料のみで道なおしが可能で、現地の人々が彼ら自身の力で継続して維持管理できるのが特徴であると、その活動についても詳しく説明しました。

酒井氏はJICAとNPO法人「道普請人」の活動を通して、国際協力とは、文化や生活習慣の違いはあるけれど人と人がお互いに足りないものを補い合うことなのだと感じていると話しました。周りの人を大切にすること、感謝する心をもつことをアフリカの友人に教えられたことや現地の体験や魅力を明るく楽しそうに後輩に伝えました。最後に「学生時代の勉強は大切です。興味があることに向かって動いてください」と後輩に励ましの言葉を贈りました。



講義の様子



ウガンダで土のうを使って道路整備を行う酒井氏



講義の打合せをする酒井氏と中川伸子教授



いつも笑いの絶えない現場の風景。ウガンダにて。

(注)ネリカは、new rice for Africa(アフリカのための新しい米)の略。西アフリカ稲開発協会(現アフリカ稲センター WARD)が1994年に開発した稲の一種。水田ではなく畑で育つ稲。干ばつや病気に強く収穫量が多い。生育期間が3か月程度と通常品種より短いので年2回の収穫が可能。

第27回管理栄養士国家試験合格者発表 合格率93.5%

平成25年5月7日(火)に第27回管理栄養士国家試験の合格発表がありました。

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の卒業生139名中138名が受験し、129名が合格、合格率は93.5%でした。全体の受験者総数は20,455名、合格者数は7,885名で合格率は38.5%、このうち管理栄養士養成課程新卒者の受験者数は8,073名、合格者数は6,680名(合格率82.7%)でした。

神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科 坂元 美子准教授の栄養指導の成果報告

第91回全国高校サッカー選手権大会にて京都橘高等学校の準優勝に貢献



坂元美子准教授

神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の坂元 美子准教授は、平成22年から私立京都橘高等学校のサッカー部の栄養指導を行ってきました。このたび、平成25年1月の第91回全国高校サッカー選手権大会で、その京都橘高等学校がみごと準優勝に輝きました。

同校は米澤 一成監督の指導による機動力に溢れる組織的なサッカーを展開し決勝戦ではPK戦の末、惜しくも準優勝に終わりましたが、選手たちが足をつることなく走りきった戦いぶりは広く注目を集めました。そこには、坂元准教授による栄養指導面のこまやかなサポートが貢献していました。

坂元准教授は、平成23年から部員全員の体脂肪率、身長、体重、ヘモグロビンの数値などを測定し、そのデータをもとにその後の成長にあわせた栄養指導を続けました。また、保護者を対象に食事調査も行い、個々の選手にあった食事の内容をアドバイスしていました。

同校の選手権大会出場が決まり、年末の合宿からは坂元准教授も日程の許す限り帯同して選手のコンディショニングに務めました。

試合に向けた栄養サポートを実施することで、食事の重要性を再認識していただき、米澤監督からは、「どのような環境下でも90分走り続けて足がつかなくなったのは栄養指導のおかげ」と感謝の言葉を頂戴しました。

坂元准教授は、今後もゼミの学生とともにスポーツ選手の栄養面のサポートをより有効的に多方面にわたり行う予定です。



「スポーツ栄養情報処理演習」の授業の様子



授業で学生が考案した試合前の食事



ゼミ活動での骨密度測定の様子



合宿(全国高校サッカー選手権大会前)での記念撮影

「生活プロジェクト演習 I」で企業とコラボレーション

神戸女子大学家政学部 家政学科2年次生対象の授業「生活プロジェクト演習I」(平田 耕造教授、梶木 典子准教授)は、自ら考え行動するとともにその評価を自ら行うことで、企画したプロジェクトの推進能力を身につけることを目標としています。平成24年度後期は7回にわたる授業で、株式会社フェリシモ様の協力を得て「体験型ギフト」開発の企画を行い目標の達成を目指しました。

「体験型ギフト」とは“体験”そのものを贈りものとし、学生は贈りものの価値や意義を再認識し、新たなギフトの創出や企画を行い、そのPRの方法までを考えました。

神戸の魅力は港町であることに由来し、外国の文化が根づいたことで今日の神戸のファッションや食生活などの生活様式が他の地域の人々にとっては魅力になっていることなどの講義を受けました。また、既存の体験型ギフト「陶芸」も体験しました。



体験授業の様子と焼成前の作品

3回目の授業では流通現場を見学し、体験型ギフトのアイデア創出の進め方や企画者の思いを伝えるためには何が重要であるかを学習しました。

そして、1月25日(金)の最終授業で「体験型ギフト エクスぺ」(案)発表会を行いました。

「体験型ギフト」の共通テーマは「ともにしあわせになるしあわせ」です。生活の中で何を体験する時に「しあわせ」を感じて分かち合えるかをグループで考え、贈りもののかたちになるように試行錯誤を重ねました。最終授業の前日まで案を練り直し、プレゼンテーションの練習をしました。発表会では、司会進行も学生が担当し受講学生全員が参加したプレゼンテーションが行われました。株式会社フェリシモ様の5名の方が審査をされ、ひとつのグループの発表が終わるたびに、優れたところと工夫をすべきポイントについての的確なアドバイスをいただきました。

プレゼンテーション力やテーマの着眼点が評価され、日本の文化の視点が盛り込まれた二つのグループのアイデアと、「お母さん世代」の気持ちを生かした「体験型ギフト」を考案したグループの計三つのグループに賞が贈られました。



物流センター見学の様子



株式会社フェリシモ 湯本京子氏にアドバイスを受ける学生たち



高評価を得たグループの発表の様子



プレゼンテーションに対し、質問する学生



発表会での記念撮影

1983年	ハワイ大学(米国)	2007年	チェンデラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
		2012年	アイルランガ大学(インドネシア)

オフ・キャンパス・プログラム報告

第1回「オフ・キャンパス・プログラムⅣ」カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校

神戸女子大学文学部 神戸国際教養学科の7名の学生が2012年8月29日から7ヶ月間、カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校集中英語コース(以下CPELI)で英語学習の授業、ボランティアシップ、ホームステイを経験し3月に帰国しました。

神戸女子大学はカリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校と2011年5月に学術交流協定を締結しました。同大学でのオフ・キャンパス・プログラムの実施は今回が初めてです。留学中は、ホームステイ先でホストファミリーと日常生活で英語を話すこと、大学内や地域においてボランティアシップを行うことがこのプログラムの特徴です。



修了証書を手にする学生

CPELIでは様々な国(クウェートやサウジアラビアなど)の学生と一緒に英語を学びました。異文化交流を深められると同時に、学習及び生活の場で、日本語を使わないという環境が大きく影響し、特にリスニング力及びスピーキング力において高い学習効果がありました。

2013年1月から3月下旬までは、英語学習と並行して大学内のアジアセンター、チャイルドケアセンター、キャリアセンターなどでボランティアシップを行いました。キャリアセンターでは、現地のスタッフや学生と一緒にホスピタリティ学部のキャリアフェアの準備やコンタクトリストを作成する仕事にも携わりました。

留学した学生たちは、異なる生活習慣や文化が数々存在することを実感し自分の意見をもつことと同時に自分とは違う考えをもつ人を理解することが大切であることも学びました。帰国後は、一層力を入れて語学学習をするようになり日常的に国際的な政治・経済のニュースを熱心に見聞きするようになりました。また、留学をして母国の文化や歴史を学ぶことが国際交流には不可欠であることがわかり、幅広い教養を身につける努力をしています。



CPELIでの授業風景



ボランティアシップの準備をする学生



CPELIの前で記念撮影

第1回「オフ・キャンパス・プログラムⅢ」華南師範大学



異文化交流を体験できる国際文化祭に参加

神戸女子大学文学部 神戸国際教養学科では2012年8月30日から第1回「オフ・キャンパス・プログラムⅢ(華南師範大学 言語文化学習とサービスラーニングプログラム)」を実施し、2年次生(当時)の小西 明歩さんが約6ヶ月間の留学生生活を終えて帰国しました。

このプログラムは、平成23年度よりサービスラーニングを含む海外体験学習として実施されています。中国での実施は今回が初めてです。

小西さんは教養科目として中国語を履修しています。華南師範大学からの交換留学生の歓迎会に出席した時に留学生との会話がスムーズにできたらよいなという気持ちが高まり、中国で行われるオフ・キャンパス・プログラムに参加することを決めました。

最初は入国手続きから苦労することばかりでしたが、華南師範大学で学ぶうちに中国語も上達し、プログラムの終わりで行うサービスラーニングでは、幅広い年齢層の知的障がいのある人が通う学校と一緒にスポーツや散歩をし、中国語を不自由なく使うことができるようになりました。将来、中国語を生かせる職業に就けるように学習を進めています。

英語鑑賞の夕べ

ウィリアム・シェイクスピア作「じゃじゃ馬馴らし」公演



平成25年5月21日(火)に神戸女子大学須磨キャンパス体育文化ホールにおいてロンドンから来日の劇団「インターナショナル・シアターカンパニー (International Theatre Company, London 以下ITCL)」によるウィリアム・シェイクスピア作「じゃじゃ馬馴らし」が650名の観客を迎えて上演されました。



受付の様子

ITCLの公演は、地域連携活動の一環として毎年開催しており、観劇を楽しみにしている方が多いイベントです。今回は8回目の公演となりました。

「じゃじゃ馬馴らし」は劇の中に劇を置く劇中劇です。少人数の出演者たちが複数の役をこなし、卓越した演技と歌や踊りのある演出で今回も目の離せない舞台となり観客を魅了しました。

文学部英語英米文学科の学生が中心となって看板作成、照明、受付、アナウンスといった運営を行うことで、シェイクスピアの作品への興味や理解が深まり、協力して公演を成功させるために協調性や計画力が養われます。ITCL所属の俳優や演出スタッフとの交流は短時間とはいえ、生きた英語を話す機会となり、貴重な学びの場にもなっています。

神戸女子短期大学の学生が 栄養士実力認定試験で好成績を修め表彰される

平成24年12月9日(日)に行われた社団法人全国栄養士養成施設協会認定の栄養士実力認定試験にて神戸女子短期大学食物栄養学科2年次生(当時)の相良 萌子さんが全国9,416名の受験者中14位(短期大学養成課程4,386名中1位)と健闘し、成績優秀者として表彰されました。

相良さんは、高校生の頃から菓子作りに興味があり、調理実習ができる神戸女子短期大学食物栄養学科に入学しました。1年次生で解剖学の授業を受講した時に、短大生になったのだという実感がわき、2年次生で受講した解剖生理学実習が2年間でもっとも面白く興味もてる授業となりました。

相良さんは予防医学、スポーツ栄養についてさらに知識を深めたいと思い神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程に4月に編入学しました。大学の須磨キャンパスにも慣れて、現在は各専門分野の内容を掘り下げて勉強し、レポートの提出に追われる毎日です。

将来は大学で学んだ知識を生かして人々の健康を守る仕事に就くことを希望し、管理栄養士の国家試験に合格することを目指して勉強に励んでいます。



卒業記念パーティーで担任の平野直美准教授(右)、学年主任の西川貴子教授と記念撮影



栄養実習の資料を作成中の相良萌子さん



第15回ブルーム展 開催

平成25年1月26日(土)から1月31日(木)までの6日間、神戸市中央区の神戸・トアギャラリーにおいて神戸女子短期大学全学科合同の卒業制作展であるブルーム展を開催しました。15回目となる本展ではウェディングドレスや絵本、住宅模型など約160点もの様々な作品を展示しました。

展示会初日に受付を担当した総合生活学科の学生は「マナーポスター」を出品しました。一年かけて制作を進めていくうちに、マナーについて深く考えるようになり日々勉強を積み重ね、反映させた作品です。渾身の力を注いだ作品が来場された方々に好評であったことは、学生にとって大きな励みになりました。また、通学で使用していたポトライナーの駅構内に制作した作品が掲示されることを楽しみにしていました。

「ブルーム(BLOOM)展」の名の由来は、蕾のような学生たちが一般社会へと旅立ち大輪の花を咲かせるように、との願いもこめられています。学生たちが学んできた集大成といえる作品展は今年度も1月後半に予定しています。ぜひご覧下さい。



神戸女子短期大学 長瀬荘一学長と受付の学生



4~5月の間、駅のホームに掲示されたポスター



食物栄養学科 “3・1・2弁当箱法” 体験セミナー



“3・1・2弁当箱法”でごはん、主菜、副菜を詰める学生



“3・1・2弁当箱法”で作られた弁当

平成25年2月13日(水)に神戸女子短期大学ポートアイランドキャンパスにおいて実施された社団法人(現、公益社団法人)米穀安定供給確保支援機構主催の“3・1・2弁当箱法”体験セミナーに食物栄養学科の32名の1年次生(当時)が参加しました。

食物栄養学科では、「食」の研究に関心をもち、これからの食生活と健康のあり方を追究する人を育てることを教育研究目標のひとつとしています。よって日頃から「食」を大切にする心や日本の食文化を継承することも重要な教育のポイントとして授業を行っています。

“3・1・2弁当箱法”のセミナーでは、弁当箱を物差しとして、一食の適量と栄養のバランスを弁当箱の表面積比(ごはん:主菜:副菜=3:1:2)でチェックする食事法を学び、実際に弁当箱に詰める体験学習も行いました。また、日本の食糧事情から自給率を上げるためにもごはんを食べることが重要であることやどうすれば自給率が上がるかについても学びました。

将来は食育の現場で活躍し、家庭でも家族の健康を担う役割を果たすことになる学生にとって、日常的に役立つ知識も得られる有意義な体験セミナーでした。

フルーツ・レンジャーから広がる輪「コラボキッチン from 梅の里」

平成25年2月9日(土)に神戸女子大学の須磨キャンパスにおいて、家政学部管理栄養士養成課程の田中 紀子教授の呼びかけで、和歌山県日高郡みなべ町の特産品である梅を使った料理教室「コラボキッチン from 梅の里」が開催されました。梅農家の方10名に来ていただき、神戸女子大学の学生、大学院生20名が参加しました。

平成23年から管理栄養士養成課程と家政学科の約50名の学生は、農林水産省近畿農政局が主催する大学生が「売れる売り方」などの提案を行う「近畿フルーツ・レンジャープロジェクト」の活動に参加してきました。

フルーツ・レンジャープロジェクトで活動した学生たちは、それが縁となり農産物の生産者の方との交流が始まりました。昨年の夏にみなべ町の梅農家で梅林、梅干の生産現場や出荷作業を見学し、梅干の製造体験をしました。意見交換をした際に「梅」の知識を広めたいという生産者の思いを知り、自分たちも一緒に何ができるか考えて、この料理教室が実現しました。

この日の料理教室では、みなべ町の梅農家の方に梅干と梅酢を使った簡単でおいしい料理を教えていただきました。梅干や梅酢を調味料として使うことで料理がさらにおいしくできることがわかりました。当日は、みなべ町の方々との「梅」の調理教室の活動や消費拡大の方法について意見交換を行いました。

料理教室のメニュー	
梅ごはん	
豆ごはん	
蒸し鍋(梅ぼん酢だれ)	
梅酢からあげ	
(梅酢はからあげを焦がさず 上手に仕上げることにびっくり)	



調理実習の様子



コラボキッチンで作った料理



「いただきます」の挨拶で試食の開始

「お気軽ランラン ゆ〜マップ」の作成に神戸女子短期大学の学生が参加

神戸女子短期大学の学生が総合生活学科の細見 和子准教授指導のもと「お気軽ランラン ゆ〜マップ」作成プロジェクト(事務局 神戸市中央区)に参加しています。中央区では健康志向、ダイエット、ストレス解消などのためにランニングをする人のサポート体制を整え、誰もが気軽に走り健康増進に取り組むことができるよう、平成24年度より「お気軽ランラン ゆ〜マップ」を作成し、ランニングモデルコースを設定しました。

マップは現在、海沿いを走るHATコース編とハーバーコース編の2種類が発行されています。中央区内の大学3校が協力して作成するなかで、本学の学生はランニングに効果的な栄養のとり方やカロリー計算などのコラムを担当しました。マップには、温浴施設やランナーをサポートする協力店、ランニングをしながら中央区の魅力をより感じてもらえるようなお薦めスポットなども掲載されています。今秋には山の手東コース編と西コース編が発行される予定です。



掲載するコラムなどを考案中



HATコース編とハーバーコース編のマップ



協力店にて中央区役所の方々
ランナー向けメニューの視察

須磨FRSネット「自然環境サミット2013」で寮生が発表

平成25年2月16日(土)に神戸市須磨区の須磨パティオ健康館パティオホールにおいて開催されたFRSネット(注)主催の「自然環境サミット2013」で、学生寮学生運営委員会の役員である2年次生(当時)の田中 美久さん、高木 愛佳さん、上山 咲希さんが「地域・社会と繋がる環境活動」のテーマで発表しました。3人は平成25年3月まで神戸女子大学行幸寮の寮生でした。

平成18年4月、学生寮では社会性を身につけながら健康安全な寮生活の一助になるよう学生の自主的な運営組織として学生寮学生運営委員会が発足しました。それ以来、寮生たちは地域の諸団体とともに地域清掃活動や環境保全活動に参加してきました。

須磨FRSネットでは、自然環境の保全活動・啓発活動推進・情報発信のため、活動事例発表と専門講師による講演会を「自然環境サミット」として開催しています。

今回、神戸女子大学からも地域活動(須磨海岸クリーン作戦、須磨エコアスロン、地域清掃活動、須磨音楽の森・清掃活動)に参加している学生寮の学生が発表することになりました。

発表した寮生たちは日頃の地道な活動を通して、自然環境を美しく保つ活動の重要性はもちろん、ボランティア活動に参加した充実感、地域住民の方々との繋がりから得られる安心感や信頼感、そして、何よりも地域への愛着が増したことを再確認しました。

(注)須磨FRSネットとは、須磨区内の自然を舞台に活動を続けている11団体のネットワーク。FRSは、森(Forest)・川(River)・海(Sea)の頭文字



発表する寮生



寮生の活動の写真を多数紹介



会場で記念撮影

地域に溶け込む寮生の活動

平成25年5月18日(土)に神戸市須磨区の神戸市立須磨離宮公園において開催された神戸まつり須磨区協賛会主催の「須磨音楽の森」で、神戸女子大学の行幸寮と天神寮の学生24名が清掃活動や運営補助のボランティア活動を行いました。二つの学生寮は須磨離宮公園に徒歩で行ける距離にあります。

汗ばむような五月晴れのもと、多くの方が須磨離宮公園を訪れ美しく咲き誇ったバラを觀賞し、メインステージで繰り広げられるパフォーマンスやふれあい広場のコーナーの催しを楽しみました。

クリーンボランティアの学生は公園内を歩き回って清掃活動を行い、すぐに一杯になるゴミ箱のゴミを分別して何回も収集所に運びました。東日本大震災の「被災地応援ブース」運営補助担当の学生は、応援メッセージを書き訪れるの方々に対応し、集まったメッセージを掲示板に貼り出す作業に専念しました。受付・案内や健康チェックコーナーの学生もそれぞれの役割で活躍しました。ボランティア活動に参加することで、地域の方との絆ができると同時に多くの方に感謝される喜びも経験した一日でした。



ゴミの分別をするクリーンボランティアの学生



被災地応援ブースでメッセージを記入する子どもたちと学生



ボランティア活動を終えて参加学生全員で記念撮影

「KOBE“にさんがろく”PROJECT」最優秀賞受賞のふりかけが商品化へ

神戸市産業振興局農政部農水産課主催「KOBE“にさんがろく”PROJECT」(注1)にて最優秀賞を受賞したふりかけが商品化されることになりました。



ふりかけの商品化が決まり記念撮影



ラジオ関西「サンデー神戸」
パーソナリティー西條遊児氏の取材を受ける学生

なぜ「ふりかけ」……？

厚生労働省の国民健康・栄養調査(平成23年)によると日本人の野菜や果物の摂取量は10年前に比べると少なくなっています。野菜や果物の摂取は生活習慣病やある種のがんを抑制する効果がある(WHO)としており、一日に野菜を350g以上、果物は200g以上摂取することが推奨されています(厚生労働省など)。

野菜の摂取量を増やす方法として、葉物野菜を乾燥してふりかけにするという案が浮かびました。葉物野菜の乾燥は電子レンジで簡単にでき、乾燥すればいつでもどこでも簡単に食べられることも大きな理由です。神戸市の農水産物の消費につながる、このプロジェクトの目的と材料をむだなく使い切ることに「ふりかけ」が適していると考えました。

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の田中 紀子教授の4年次(当時)のゼミ学生たちが神戸市の農水産物でふりかけを作ることを考案しました。その活動を後輩のゼミ生が引き継ぎ、商品化へ向けて企業と連携してパッケージの作成やネーミングを考えました。「やさしい七変化^{しちへんげ}」という名前で発売されます。

このふりかけは神戸産の農水産物の消費拡大につなげることを目的に考えられましたが、管理栄養士を目指す学生のアイデアということで野菜(ホウレンソウ、コマツナ、ミズナ、大根の葉)とイワシチリメン、ノリなどを使いビタミンA、Cや鉄分を多く含んでいる栄養満点のものになりました。

3月24日(日)に神戸市中央区のみなの森公園で開催された「神戸アミュゼ」(注2)で、初めて製品として学生自ら販売を行いました。用意したふりかけ35袋とふりかけで作ったおにぎり350個は好評で、お昼過ぎに完売しました。今後は食品会社により商品化されて販売される予定です。

(注1) KOBE“にさんがろく”PROJECTとは、神戸市の農水産物をトータルにPRするために、若者のアイデアと企業のノウハウを活用した新たな「ものづくり」、神戸市の農漁業者、若者、企業の3者の連携・交流を促進する新たな「ネットワークづくり」の二つの取組みを行う。平成24年に開始された。

(注2) 神戸アミュゼとは、神戸・兵庫の食材の地産地消を推進するために食を通して、地元の生産者・お店・企業を支援し、地域経済を活性化させるとともに、コミュニティの拠り所を提供することを目的に開催されるイベント。



販売ブースの様子



完売を祝って先輩と一緒に記念撮影



神戸アミュゼで販売したおにぎりとふりかけ

学 園 からのお知らせ

○平成25年度 兵庫県功労者表彰

平成25年の県功労者として261名(22部門)が選ばれ、5月21日(火)に県公館で表彰式が行われました。本学園関係者では神戸女子大学名誉教授の加藤 隆久理事が歴史民俗を調査研究し、芸術文化の発展にも寄与した功績により「県勢高揚功労」部門での受賞となりました。



行吉誠之理事長(左)と
受賞祝いを贈られた加藤理事

○名誉教授称号授与式

平成25年5月30日(木)に神戸ポートピアホテル本館「菊水の間」において神戸女子大学の名誉教授の称号授与式が挙行されました。

本年度の神戸女子大学名誉教授の称号が、文学部 阪口 弘之先生、佐藤 仁先生、波田 重熙先生、健康福祉学部 瀬口 春道先生、家政学部 大槻 眞先生の5名の方に授与されました。

式典では神戸女子大学の中島 實学長から称号記が授与され記念写真撮影後、和やかに懇談が行われました。



名誉教授称号授与式において記念撮影

阪口 弘之先生の教育・研究実績

日本近世文学、特に浄瑠璃、歌舞伎、説経などの研究に従事し優れた業績をあげる。近松研究の第一人者。

大阪市立大学大学院文学研究科教授(この間、文学研究科長兼文学部長、ハンブルク大学客員教授、21世紀COE拠点リーダーなどを歴任)を経て、平成17年4月から神戸女子大学文学部教授。平成19年から神戸女子大学大学院文学研究科長(平成25年3月まで)。平成18年から神戸女子大学古典芸能研究センター長(平成25年3月まで)。大阪市立大学名誉教授。

佐藤 仁先生の教育・研究実績

デンマーク体操、体育教育、剣道、中国武術の研究に従事。学習指導要領の体づくり運動とデンマーク体操のねらいの相似性について検証し成果をあげる。

昭和63年から神戸女子大学文学部助教授、平成8年から同教授。「体育科教育法」「スポーツと健康の科学」などを担当。剣道7段教士、大連医科大学客員教授(平成14~17年)、日本デンマーク体操研究会理事長(平成16~17年)。

波田 重熙先生の教育・研究実績

西南日本を皮切りに、アジア・太平洋地域を中心とした世界の変動帯の構造運動の研究に従事。特に、付加体の解明を通して、変動帯の形成・発展をプレートテクトニクス理論に基づき統一的に説明することに先駆的貢献をした。

大阪市立自然史博物館学芸員、高知大学理学部教授、神戸大学大学院教育研究センター教授・神戸大学大学院自然科学研究科教授を経て、平成16年4月から神戸女子大学文学部教授。平成19年11月神戸女子大学・神戸女子短期大学の学長に就任。平成23年に神戸女子大学学長に再任(平成25年3月まで)。高知大学名誉教授、神戸大学名誉教授。

瀬口 春道先生の教育・研究実績

解剖学、血液内科学、人類遺伝学が専門。細胞骨格の解明、ニューギニア地域の神経難病に関する研究に優れた業績をあげる。

高知医科大学、高知大学の医学部教授を経て、平成17年から神戸女子大学家政学部教授、平成18年から神戸女子大学大学院家政学研究科長(平成21年3月まで)。平成21年から副学長、健康福祉学部長(平成22年3月まで)。平成22年から特任教授。高知大学名誉教授。カナダバンクーバー市、プリティッシュコロンビア大学名誉教授。

大槻 眞先生の教育・研究実績

消化器病と糖尿病の専門医。膵臓の内分泌と外分泌機能相関に関する研究に従事。平成14年から6年間厚生労働省難治性膵疾患調査研究班の主任研究者として、急性膵炎や慢性膵炎、自己免疫性膵炎などの膵疾患の病態解明と治療法の開発に貢献した。

産業医科大学第三内科学講座(消化器代謝内科)教授を経て、平成20年から神戸女子大学家政学部教授。平成21年から神戸女子大学大学院家政学研究科長(平成25年3月まで)。産業医科大学名誉教授。

○平成24年度 博士学位取得者

平成25年3月18日(月)に博士の学位が2名に授与されました。

<課程博士> 博士(食物栄養学)

田原 彩(神戸女子大学大学院家政学研究科 食物栄養学専攻) 指導教員:瀬口 正晴教授

論文題目:「Application of Cellulose Granule as Food Materials in Bread-Making, and Its New Health-Promoting Functions」(製パンへのセルロース粒の利用と新しい機能導入の可能性)

<論文博士> 博士(生活造形学)

石井 与子(神戸女子大学大学院家政学研究科 生活造形学専攻へ提出) 指導教員:平田 耕造教授

論文題目:「環境温・湿度変化から見た吸湿性の異なる肌着用時の温熱生理反応と衣服気候に関する研究」

行事日程

7月

2	火		<ポートアイランドキャンパス>すいか祭り
6	土		学国内編入学試験
9	火		<須磨キャンパス>すいか祭り
15	月	海の日	祝日授業日
20	土		オープンキャンパス
23	火		<短大>前期定期試験開始
26	金		<大学・短大>前期授業終了

8月

3	土		オープンキャンパス(4日まで)
9	金		<大学・短大>前期定期試験・補講期間終了
10	土		<大学・短大>学生夏季休業(9月22日まで)
12	月		全学一斉休業(16日まで)
18	日		オープンキャンパス
30	金		<短大>前期定期試験結果・追再試験発表

9月

3	火		<短大>前期追再試験(6日まで)
5	木		<大学>前期科目最終成績発表
7	土		オープンキャンパス
16	月	敬老の日	
23	月	秋分の日	祝日授業日<大学・短大>後期授業開始

10月

12	土		AO入試(二次)、<大学>一般編入学試験
14	月	体育の日	祝日授業日

11月

1	金		大学祭準備(休講)
2	土		大学祭・学園祭(3日まで)
4	月	振替休日	
9	土		公募制推薦入試AB、神女ファミリー入試、公募制自己推薦入試
10	日		指定校特別推薦入試、社会人特別入試
11	月	創立記念日	休日授業日
23	土	勤労感謝の日	
24	日		<大学>オープンキャンパス

12月

7	土		公募制推薦入試後期
20	金		<大学・短大>年内授業最終日
23	月	天皇誕生日	
30	月		全学一斉休業(1月3日まで)

1月

1	水	元旦	
6	月		<大学・短大>後期授業再開
13	月	成人の日	
17	金		阪神・淡路大震災 鎮魂の日
18	土		大学入試センター試験(19日まで)
21	火		一般入試前期A
22	水		一般入試前期B
23	木		<短大>後期定期試験開始 <大学>学友会後期総会(休講)
25	土		<短大>ブルーム展(30日まで)
27	月		<大学・短大>後期授業終了

表紙写真

ケニギン・ベアトリクス Königin Beatrix

「ケニギン・ベアトリクス」

2013年4月30日、オランダでは123年ぶりの男性国王、ウィレム・アレクサンダー国王の即位式が催されました。皇太子妃雅子様が11年ぶりに海外でのご公務にご夫妻で臨まれたことで、日本でも話題になりました。アムステルダム中心街はオランダ王室のシンボルカラーであるオレンジ色であふれ、祝福ムードに包まれました。オランダ王室のシンボルカラーがオレンジ色になったのは、16世紀後半にスペインからの独立戦争で先頭に立ったオラニエ公ウィレム1世の家紋がオレンジ・白・青の三色であったことが由来と言われています。オラニエ公ウィレム1世の直系の子孫であり、新国王の母でもあるベアトリクス前女王は、1980年に母親のユリアナ女王から王位を譲渡され、33年に渡って在位しました。前女王に捧げられたバラが、「ケニギン・ベアトリクス」です。1983年にドイツのコルデス社から作出された、明るいオレンジ色の大輪のバラは香りが良いうえに花つきがよく、花持ちも良いことから、切り花にも向く品種です。須磨離宮公園の王侯貴族のバラ園では、キャナル噴水を中心に左右対称で植栽されています。ピンクや赤色のバラが多い中で、オレンジ色のこのバラは独特の存在感を放っています。



神戸市立須磨離宮公園 園長 山村 治



編集後記

皆様にお届けする神女広報CROSSROADS16号の編集作業は、ちょうど梅雨の時期に重なります。シトシト静かに降る雨が紫陽花の美しさを引き立てるといったイメージもある季節ですが、今年は梅雨に入ったとたん真夏のような暑さが続きました。その後は、台風も影響して大雨が降りました。天候は思うようにならないもの。水不足を心配しない程度に雨が降る梅雨を期待するのはわがままなのでしょうか。

最近の明るい話題のひとつは、サッカーの日本代表が2014年ワールドカップ(W杯)ブラジル大会の出場を決めたことではないでしょうか。W杯は5大会連続の出場となり、一昔前には、夢の大会だったW杯が私たちの話題になる身近な存在となりました。日本のサッカー界の選手や関係者全員が高い目標を掲げ、それに向かって組織的に一丸となって弛まぬ努力を続けた結果でしょう。努力によっては夢が実現するというお手本のように思われます。

今回発行の神女広報も学外、学内の多くの方にご協力いただき完成いたしました。関係者の皆様に感謝を申し上げます。4月から学園広報課に課名が変更になりました。皆様に喜んでお読みいただける広報誌の作成を目標に今後も努力してまいります。

(M.O.)

神女広報 CROSSROADS vol.16 2013年7月発行

編集・発行 学校法人行吉学園 学園企画部 学園広報課
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL:078-303-4790 FAX:078-303-4857
ホームページアドレス <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>
E-メールアドレス gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp
印刷 交友印刷株式会社

※「神女広報」へのご意見、お問い合わせなどお寄せください。



学校法人行吉学園



神戸女子大学



神戸女子大学大学院



神戸女子短期大学



神戸女子大学教育センター

vol.16
2013 Summer

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ

神女広報

CROSSROADS